

September 28, 2025

## 悪に勝つ

ローマ 12:19-21

12:19 愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。

12:20 次のようにも書かれています。「もしあなたの敵が飢えているなら食べさせ、渴いているなら飲ませよ。なぜなら、こうしてあなたは彼の頭上に燃える炭火を積むことになるからだ。」

12:21 悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

ローマ人への手紙 12 章から 15 章前半までは、神の愛に生きる生き方が教えられています。きょう学ぶ、12:14-21 には「すべての人を愛する」ことが教えてられているのですが、14 節には「あなたがたを迫害する者たち」、また 17 節には「悪」、さらに 20 節には「敵」とあって、「すべての人」の中には、善良な人、自分の好きな人ばかりでなく、自分にとって嫌だと思える人、迷惑に思える人、さらに、自分を迫害する人たちさえも含まれるのです。「迫害する人たち」、「悪を行う人たち」、また、「敵」さえも愛する。そんなことを求めている教えは聖書その他ありませんし、簡単に実行できることでもありません。なぜ神はこのようなことを求められるのか、どうしたら私たちは、神が求められる愛を持つことができるのか。こういう難しい箇所は、私たちに、そんなことを立ち止まって考えさせてくれます。きょうの箇所を通して、神のお心がどんなものなのかを知り、神が愛のお方であることを発見したいと思います。

## 一、祈りによって

9月10日、チャーリー・カークさんが銃弾に倒れ、先週9月21日にはアリゾナでメモリアル・サービスが行われました。キング牧師が暗殺された後のメモリアル・サービスと同じほどの大規模なもので、多くの人々が彼の死を悼みました。けれども、カークさんが亡くなったとき、TVの番組やSNSでそれを喜ぶようなことを話したり、投稿したりする人たちもいました。そういった人たちは、人としての心を失っていたのでしょうか。自分と違う意見を広める人は、暴力で抹殺してもよいという考えがどこかにあったのだと思います。そういう考えが広まっていくことはとても恐ろしいことです。

カークさんの死は、キング牧師と同じように「殉教」でした。カークさんの運動は政治的なものがすべてではありませんでした。彼は、神を信じ、イエス・キリストを受け入れ、信仰に立って活動しました。人々の前やスタジオのマイクロフォンの前で話すときには、いつも「神さま、みこころに従えますように」と祈る人でした。人が幸せに生きる道は聖書にあると語りました。しかし、そのことが、神を否定し、イエスを嫌う人々の憎しみの的になったのです。

正しい意見が語られるのを聞き、正しい生き方を貫いている人を見ると、人は、自分の間違いに気づき、良心が責められるものです。普通は、それによって考え直したり、生き方を改めたりするのですが、神を否定し、キリストを憎む人たちは、良心の呵責をごまかすために、暴力に訴えます。火炎瓶や鉄パイプを手にとって街に繰り出し、車に火をつけ、商店のドアを破って略奪したりするのです。

しかし、神を信じ、キリストを愛する人々は、暴力に暴力で

返しません。暴力には祈りで返します。イエスはそのことを弟子たちに教えられただけでなく、ご自身がそれを実行し模範を示されました。イエスはいわれのない罪を着せられ、十字架に追いやられました。けれども、自分を苦しめる者にやりかえしませんでした。聖書に、「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった」（ペテロ第一 2:22-23）とある通りです。イエスは、自分を十字架につけ、敵意をむき出しにして嘲る人々のために、「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」（ルカ 23:34）と祈られました。

ステパノは、このイエスの模範に従いました。ステパノはエルサレム教会の「七人」の執事の一人に選ばれた人で、聖霊と知恵とに満たされた人でした。信仰に敵対する人たちがステパノに議論をふっかけましたが、ステパノは、神からの知恵でみごとに論破しました（使徒 6:9-10）。それが悔しかったのでしょうか、彼らはステパノを最高法院に連れていき、「この人は律法を変えようとしている」と訴えました。しかし、ステパノは、「律法に逆らってきたのは、あなたがただ」と指摘したため、人々はステパノを街の外に連れていき、ステパノめがけて石を投げつけました。しかし、ステパノは、飛んで来る石を体に受けながらも、ひざまずいて祈りました。「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」（使徒 7:60）

エリカ・カークさんも夫のメモリアル・サービスで、「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」との言葉を引き、容疑者をさして

「彼を赦します」と語りました。

こうしたことに、私たちは感動するのですが、自分のこととなると、小さなことでさえいつまでも恨みに思うようなことがあるかもしれません。そんな自分を見て、「私にはとても聖書の教え通りのことができない」と思ってしまいます。しかし、そんなときも、いや、そんなときこそ、私たちは祈らなければならないと思います。すぐには人を赦せない。そのことを、祈りの中で正直に神に申し上げるのです。最初は葛藤しながらの祈りであっても、祈り続けるとき、最終的には、神の言葉を受け入れ、すべての人を愛する愛へと導かれるようになります。

憎しみや暴力には「祈り」で答える。このことを覚えておきましょう。

## 二、御言葉によって

「祈り」の次に覚えておきたいことは「御言葉」です。19節には「愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい」と教えられています。これは、正義を放棄することではありません。最高の審判者である神にゆだねることです。愛する人を殺害した人を憎んで、その人を殺害してしまったらどうなるでしょう。自分が憎んでいる殺害事件をもう一つ増やし、自分が「殺害者」になってしまうのです。復讐は私たちに惨めな結果しかもたらしません。

パウロは使徒ですから、人々に「復讐してはいけない」と教えるだけでよかったのですが、きょうの箇所では、「こう書かれているからです。『復讐はわたしのもの。わたしが報復する。』」と聖書を引用し、さらに、念を押すように「主はそう言われます」と付け加えています。「こう書かれている。」こ

れは、イエスがサタンの誘惑にお答えになったときに言われたのと同じ、とても重々しい言い方です。「復讐してはいけない。」これは、神ご自身の言葉で、決して軽々しく受け止めてはいけないのです。

ネロ皇帝（在位 54-68 年）からコンスタンチヌス皇帝のミラノの勅令（313 年）まで、ローマ帝国内のクリスチャンは恐ろしいほどの迫害を受けました。しかし、そんな中でも、福音はローマ帝国の隅々まで、また、それをこえて外国まで広まりました。ローマの軍人や皇帝の親衛隊にもクリスチャンになる者がありました。もし、教会の指導者たちがそうした人々と連携してクーデターを起こせば、皇帝を倒すこともできたかもしれません。しかし、決してそんなことをしませんでしたし、そんなことを考えもしませんでした。クリスチャンは、使徒たちの教えを守りました。いや、使徒たちが教えたイエス・キリストの教えにまで遡って、神の言葉に従ったのです。

### 三、善によって

しかし、悪や不正、また迫害する者のために祝福を祈り、御言葉に従って善をもって報いたりすると、そういった人たちに甘くみられてしまうのではないかと、結果として悪を助長するのではないかと心配も生まれます。クリスチャンの善意を利用する人たちがいることも確かです。私が最初にカリフォルニアに来たときは今よりも安全で清潔でしたが、それでも、教会の駐車場で車からバッテリーを盗まれたとか、バッグをひったくられたとかいうことがありました。しょっちゅう誰かが来て、食べ物を買うお金がいる、ガソリン代が必要、アムトラックに乗るチケット代が必要、夫の暴力から逃げるのにホテル代を出

してほしいなどと言ってくるのですが、たいていは、アルコールやドラッグに使われます。アムトラックのチケットを買ってあげたとき、その人が列車に乗るのを確かめなくて帰ってきたあと、チケットは払い戻しを受けることもできることを知って後悔したこともありました。それで、缶詰などを教会で用意してお金はあげないで、そうしたものをあげるようにしてきましたが、お金を求める人は絶えませんでした。教会に来て、神の前で嘘をつかれることはとても悔しく思いました。そのうち、ホームレスの人たちが教会の入り口に寝泊まりし、そこを汚していくようになりました。朝、教会に着いて、それを掃除するのが日課になったこともありました。教会を汚くして平気なのを見て、腹立たしく思いました。

そんなとき、神は私に語られました。「愛する者たち、……悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」神は、決して侮られるようなお方ではありません。善と悪のけじめをつけてくださいます。けれども、神は同時に愛の神です。私自身も神の栄光を汚す者だったのに、それなのに、神は、私を愛し、赦し、清め、癒やしてくださいました。

「愛する者」と呼んでくださっています。私は、「愛する者たち」という呼びかけを聞いて、神が、私が感じているフラストレーションをご存知だということを思って慰められました。また、私が義務的に、腹を立てながら掃除をしても神には喜ばれない。神に愛されている者として、神への愛のゆえにそうしなければならないことを教えられました。

カリフォルニアでは、アルコールやドラッグに溺れる人々が一箇所に集まっている地区があちらこちらにあります。そうした地区ではビジネスが成り立たなくなり、大きな社会問題に

なっています。そうした人々が社会に迷惑をかけ、損害を与えていることに嫌悪感を抱き、嘆くのは簡単です。けれどもそれを乗り越えて、そうした人たちにも手を差し伸べ、そこからの回復を願って、シェルターを運営し、カウンセリングや就職の援助などに励んでいるクリスチャンの団体が数多くあります。そういう働きは目に見えて成果が表れはしませんが、それでも、一人、二人とイエス・キリストを信じて人生が変えられていく人々が起こされています。忍耐のいる働きですが、そうした働きは、「悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい」との教えの実践だと思えます。

善をもって悪に勝つ。それは第一に、祈ることによってなされます。いや、祈ることなしにはできないことです。まずは、神から大きな愛を受けているのに、他の人を愛せない自分のために祈ることからはじめたいと思います。

善をもって悪に勝つ。それは第二に、神の言葉に従うことになされます。誰しも、人から嘘をつかれ、利用されるだけ利用されて裏切られたことがあるかと思います。けれども、そうした人への憎しみや恨みをいつまでも持ち続けても、何の解決にもなりません。感情的には嫌だと思うことであっても、御言葉の教えであるからそれに従う。そういう信仰をもちたいと思います。その時、私たちは、否定的な感情から解放されます。自分がまず神の言葉に従うことにより、自分に悪をなした人もまた、神を信じ、神の言葉に従うようになることを期待するので

す。

最後に、詩篇 37:1-3 をご一緒に読みましょう。「悪を行う者に腹を立てるな。／不正を行う者にねたみを起こすな。彼らは草のようにたちまちしおれ／青草のように枯れるのだから。主

に信頼し 善を行え。／地に住み 誠実を養え。」

(祈り)

「主に信頼し 善を行え。／地に住み 誠実を養え。」主なる神さま、この御言葉を感謝します。世の悪に悩まされることの多い時代です。そのような中で、私たちは、世の現実とあなたのお言葉との間に葛藤を覚えます。しかし、あなたはその葛藤にも目をとめ、慰めてくださいます。あなたご自身と祈りと御言葉、これ以上の「善」はありません。どんなことでも祈り、御言葉にしたがって、あなたの愛に生き、善を求めることができますよう、私たちを導いてください。イエス・キリストのお名前で祈ります。